

事例

**JA女性部のボランティアによる食農教育活動
～食と農を愛しつなぐ架け橋に～
(第8回食育活動表彰 消費・安全局長賞受賞)**にしみの
西美濃農業協同組合ふるさと隊 (岐阜県)

JAにしみのに所属する農家の女性部会員が、地域で始めた田植え体験等のボランティア活動をきっかけに小学校や保育所と関わりを持つようになり、食農ボランティア「ふるさと隊」の発足に至りました。この名前については、食に関する知識等と併せてふるさとを思いやる気持ちも一緒に伝えたいという思いから命名しました。次世代を担う地域の子供たちに向けて、私たちが作る米や大豆、野菜を使った食育とその食材を作る過程、食の根本を支える農業を組み合わせた食農教育活動を展開しています。

全国でも有数の会員数を誇るJAにしみの女性部内のふるさと隊は、管内で盛んに生産されているにもかかわらず食料自給率の低い大豆を中心に、地域住民と協力して、生産から加工して食べるまでの一連の流れを体験できる学習を提供しています。活動の中では、子供たちが食の在り方や農との関係を学び、命の尊さや大切さを感じられるよう、単発の収穫体験や調理実習だけでなくとどまらず、栽培、収穫、加工の各過程を取り入れた包括的な食農教育を行っています。また、農業の凄さや楽しさだけではなく、例えば農薬を使用せずに野菜を育てた場合に生じる虫や害獣の被害、生育不良等の課題についてまでも包み隠さず伝え、体験と気づきを学習に織り交ぜることで、子供たちの「次もやりたい、学びたい」という気持ちを引き出すように工夫を凝らしています。

長年にわたる活動の中では、地域と食と農をつなぐ架け橋となれるよう、各方面の関係者に働き掛けながら、地域の中で食と農の体験を広げてきました。今後も、管内の教育機関（小学校、中学校、高等学校、大学等）と連携し、それぞれの発達段階に合わせた持続的な食農教育活動や、研修会等を通じた新規ふるさと隊員の育成を継続し、ふるさと隊の存続と拡大を目指していきます。



親子でサツマイモの苗植えをする様子



出前授業での豆腐作り体験